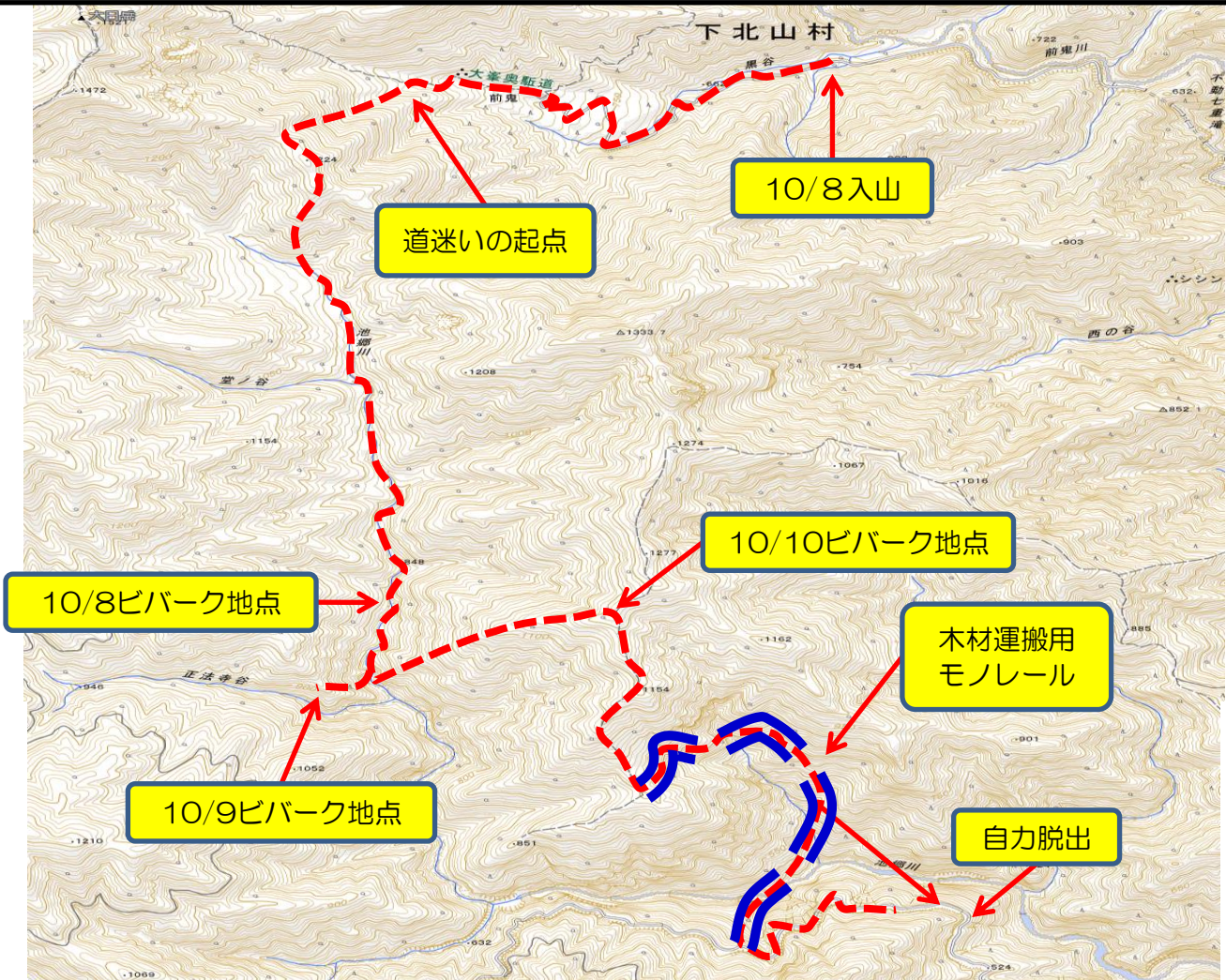


大峰・釈迦ヶ岳遭難(2012年10月)

62歳男性。単独、日帰りの予定で釈迦ヶ岳へ。途中で時間が足りず、引き返すがすでに道に迷っていた。険しい山中を4日間彷徨った末に自力下山した。



解説

道迷いの場所(起点)は、沢の分岐。道がわかりづらい場合は、道に迷うケースも多い。尾根まで登ったが、道が不鮮明であったため、同じ道を帰れなかったのだろう。池郷川の源流部の方へと迷い込んでしまったようだ。しばらくして迷ったことに気付いたものの「下りていけば何とかかなと思った。」という。

ビバークを繰り返し、山中をさ迷い歩いたのち、幸いにも木材運搬用のモノレールが見つかった。これをたどって、どうにか自力脱出することができた。

「あれっ?おかしい?」と思った時の行動が運命を決める。「下りていけば何とかかなと思った。」という心理状態は、初期の段階に多く、自分自身を励ます行動をとってしまうが、「根拠は何もない」。根拠がなく行動すれば、山中を彷徨うことになるのだが、道迷いの心理は冷静ではないため、それを許さない。

「あれっ?おかしい?」という初期の行動が冷静な判断で決められるように、いろいろな読図の知識を身に着けたい。